

3-3 高齢者福祉の充実

■現況と課題

本町における高齢者の状況は、総人口が減少するなか、高齢者人口が増加を続け、平成23年で3,620人と全人口の25.9%に達しています。

特に75歳以上の後期高齢者の割合が高まっていることから、今後も高齢者福祉施策において、ひとり暮らしや高齢者世帯などに対する支援を行い、高齢者が地域から孤立しないよう、地域社会全体で支え合う必要性がますます高まっています。

これまでも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、介護サービスの提供体制づくりや町独自事業の実施を行ってきましたが、今後も利用者の実態把握に努め、個人に合わせた適切な支援を行う必要があります。

また、要介護認定者は、平成23年で688人と65歳以上の高齢者の19.0%となっていますが、施設の入所待機者が依然として多い状況となっているため、今後の施設整備について検討することが必要です。

これらの課題については、高齢者の声を聞きながら、関係機関、介護事業所及び地域社会と連携を図りながら対応することが求められます。

■今後の方向性

1. 介護サービスと介護予防の充実

(1)地域包括ケアの考えのもとに、利用者の状況に応じた質の高いサービスが提供されるよう、介護サービス事業者へ適切な指導助言と研修体制の確立を図るとともに、適正なサービスが供給されるよう包括的・継続的ケアマネジメント支援を実施します。また、高齢者が安心して暮らせるよう、制度改正や高齢化などの将来的な展望に立った老人福祉施設のあり方や定員の見直しについても検討します。

(2)介護予防センターを拠点に、元気な高齢者の介護予防と軽度の要介護者の状態維持・回復のため、介護予防や介護指導、介護方法の普及啓発を促進します。また、地域包括支援センターにおいて、地域支援事業や新予防給付マネジメントの効果的な実施を図るとともに、介護事業所間の連絡調整及び情報交換を行い、高齢者の実態把握を行います。

2. 高齢者の在宅支援サービスの充実と家族相談支援の強化

(1)高齢者が住み慣れた地域で、自立して暮らすためには、介護サービスと福祉サービス双方が、効果的に実施されることが必要です。そのために在宅支援サービスを充実し、認知症高齢者や家族を支える相談支援体制の強化を図ります。

3. 高齢者の健康づくりの推進

(1)心も体も健康な状態で高齢期に達することは、健康寿命を伸ばし、介護給付費や医療費の抑制効果をもたらします。元気な高齢者を増やすため、生活習慣病の予防対策に加え、お達者教室や高齢者体力アップ推進事業を実施し、高齢期に向けた健康づくりの推進を図ります。

4. 高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進

- (1)高齢者が生きがいあふれる生活を送るためには、楽しみを持ち、役割を担いながら社会の中で活動することが大切です。そのために老人クラブと連携し、社会参加を推進するとともに、学習機会や豊かな経験と知識を他の世代へ伝えるなどの高齢期の生涯学習の充実を図ります。
- (2)高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域での支え合いが必要となります。そのために、地域福祉の推進、ボランティア活動の普及、世代間交流の促進などのコミュニティ活動の充実を図ります。

■実施事業

- ・地域ケア会議の開催
- ・特別養護老人ホーム民営化の検討
- ・老人福祉施設入所等措置事務事業
- ・介護予防センターの運営
- ・給食サービス事業
- ・緊急通報システム設置事業
- ・ひとり暮らし老人等電話サービス事業
- ・軽度生活援助事業
- ・移送サービス事業
- ・介護用品支給事業
- ・生活管理指導宿泊事業
- ・在宅要介護高齢者紙おむつ処理対策事業
- ・権利擁護事業
- ・地域包括支援センター事業
- ・シニアパスポート事業（敬老入浴料助成事業・敬老優待乗車事業）
- ・高齢者体力アップ推進事業
- ・高齢者事業団の育成
- ・老人スポーツ・老人福祉大会の実施
- ・老人クラブ活動への助成
- ・保健予防活動の充実（再掲）
- ・敬老会負担金事業
- ・福祉ボランティア育成事業（地域福祉振興事業）
- ・マンパワーの整備
- ・地域福祉推進組織支援事業（再掲）
- ・三世代交流事業（再掲）